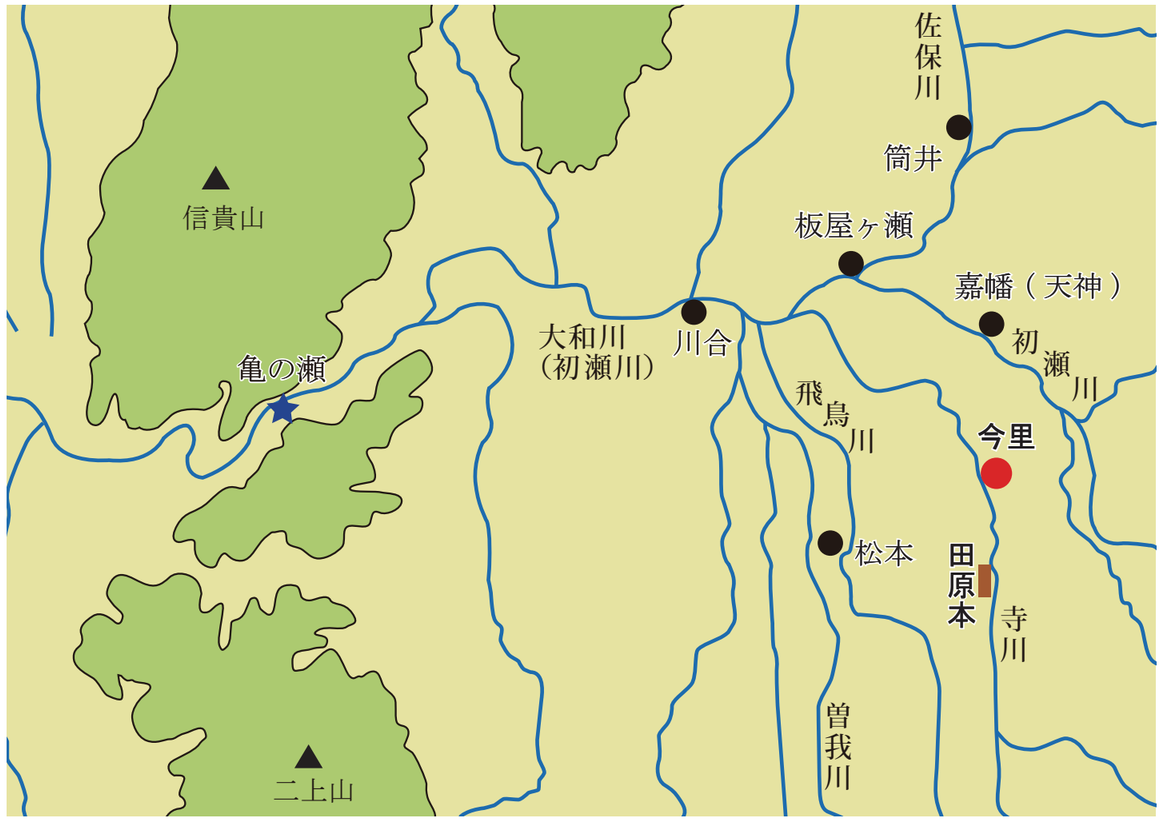


大和川流域の主な問屋場

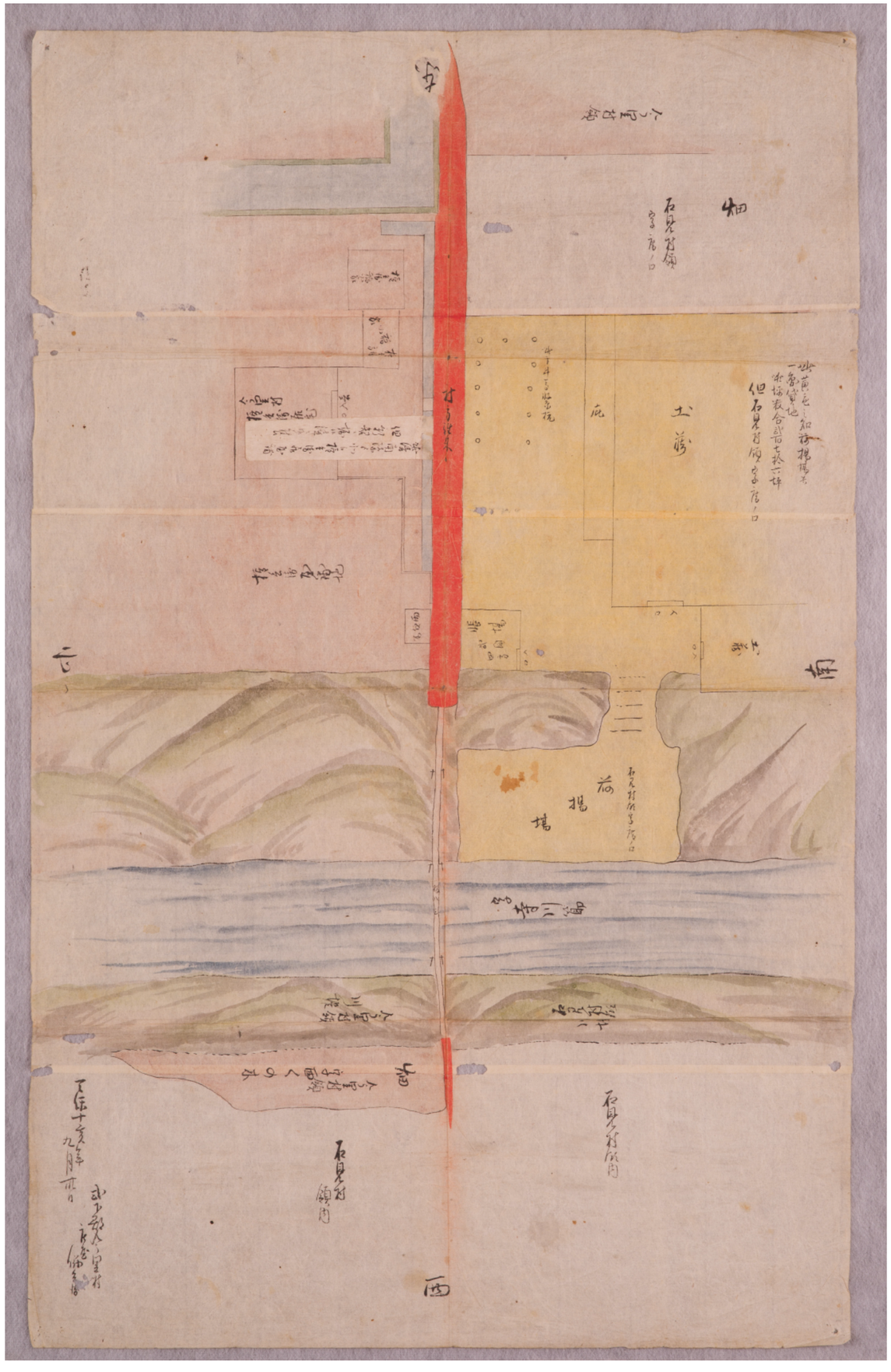
魚梁船は、大坂へ年貢米を運ぶために竜田藩主の片桐且元が慶長十五年（1610）に平群郡立野村の安村喜右衛門に命じて製造させました。以降、魚梁舟の運航とそれにともなう運送業は、安村家が担うこととなり、初瀬川筋、寺川筋、曽我川筋、佐保川筋それぞれに荷継問屋が営まれました。

これらの荷継問屋のうち、寺川筋の今里問屋の取引量は他を圧倒しており、田原本が物資の集散地として栄える上で大きな役割を果たしました。

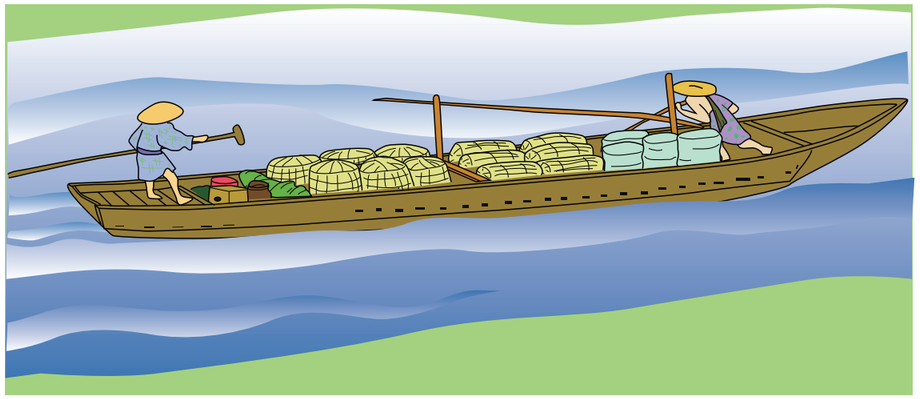
	今里	天神（嘉幡）	川合	松本	筒井	道からの直接	魚梁
亀の瀬から上流へ	12,419.5	3,135.0	648.4	1,091.5	387.5	4,933.4	199.3
上流から亀の瀬へ	3,172.3	623.5	757.0	166.0	8.5	1,304.0	89.7

単位は駄（１駄は約 135kg）

享保９年７月～12 月　魚梁船が運ぶ荷物の内訳（『新訂王寺町史　本文編』より）



右　寺川筋今里問屋場絵図
天保 10 年（1839）　今里自治会所有



剣先船のイメージ

川西町所蔵の川船

江戸時代の物資は、大坂から亀の瀬までは「剣先船」、亀の瀬から大和盆地の各地へは「魚梁船」と呼ばれる川船が運びました。

剣先船は全長 11 間３尺（約 20.7m）、幅１間１尺余り（約 2.1m）、一艘の積載量は 16 駄（2,160kg）でした。

魚梁船はこれよりひとまわり小さく全長８間半（約 15.3m）、幅５尺（約 1.5m）でした。いずれも底が平たく、先端が尖る形でした。

ミニ展示パンフレット『寺川筋今里問屋場絵図』展
期間：平成 30 年２月 10 日（土）～２月 25 日（日）
場所：田原本町図書館内ロビー

田原本町教育委員会事務局　文化財保存課
奈良県磯城郡田原本町 347-1
TEL:0y44-32-4404
FAX:0744-34-0522

唐古・鍵遺跡史跡公園は平成 30 年４月中旬オープンの予定です。
唐古・鍵考古学ミュージアムは平成 30 年６月にリニューアルオープンする予定です。

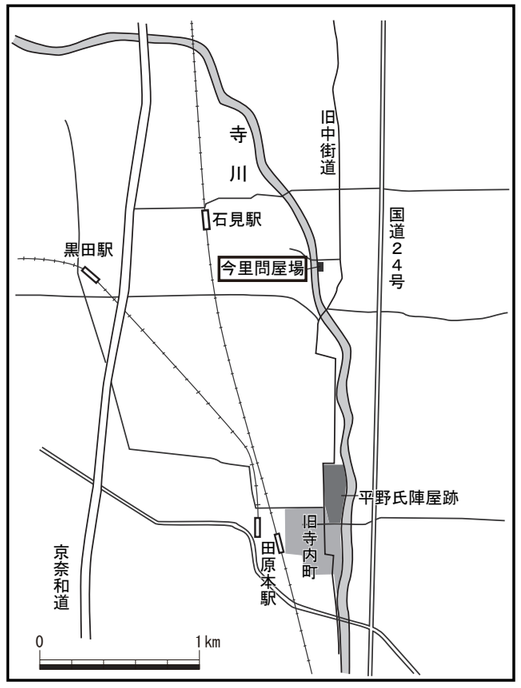
町指定文化財

寺川筋今里問屋場絵図

有形文化財（古文書）　寺川筋今里問屋場絵図　１鋪（ぽ）
今里自治会所有　江戸時代　天保 10 年（1839）
紙本墨書・淡彩縦　63.6ｃｍ、幅 39.7ｃｍ
指定年月日　平成 30 年１月 12 日

平野氏五千石の陣屋町である田原本は、その北方約 1.2ｋｍに位置する川船の港「今里の浜」を介して大坂と結ばれ、物資流通の要衝として繁栄しました。

今回、町指定したのは、通称「今里の浜」の絵図として知られているものです。絵図では、荷揚場と土蔵のある場所を「石見村領字庵ノ口」と記しており、浜があった場所は三宅町大字石見となります。このため、これまでの通称「今里の浜」を「寺川筋今里問屋場」と呼ぶことになりました。



今里問屋場跡（今里橋から、左が浜跡）

この絵図には、荷揚場や土蔵、牛馬を繋ぐ杭が描かれ、近世の「浜」の様子を詳細に知ることができます。

今里の問屋場が描かれたこの絵図は、田原本陣屋町の発展を考える上で極めて重要です。また、県内では舟運の浜の様子を描いた絵図がほとんど残されていないことからも、学術的に貴重な史料になります。